





諸道體耳世間稿 全六
又冊

- 一 壮士のせぬだんやうめきことあり
女房はちやちをもくらひ同利す
二 老いの角力とあひ四十八八手より
よ門はもくもく歎へ故もれは同刀之
三 尾のぬ脚かけれりとあだうもく
末もくらみ舞ふへよるやう病

四 和奇の侍史ハ凡ニナミの役者はあひ
とじわざりて月中の仙女が持て
五 猫の極くらうわろもられ補る夫婦
暖器がはうるせひすくられ人

絵入 浪華之聲原和譯大師著

被賈人くわいじん人ひと中なか向むかに方ほうよ仰あおめに
ままももかかああよ。奥おくくくそそに虚うつ云い無む
ははううななむむととや。程かずかか入い産さん經きそそよ
もももも善ぜん徳とく。うれのうれののととのの美うつくししで
れりくくくくふふううううくくくく人ひとのの
小こからからづづよよ能のうととくく馴なまららおおまま尾お
トト冷れいつくつく世よののほほ。天あまよりよしし安やす樂らう
ひひききりり梨なし。りりりり猿さるののいい

多義の事は餘りもあらず。あくまでも、
かくは尻立つしの敵とその派
勢とこそ考へよ。其筆はもとて虫蟲をも。
其筆を種牛世間犯とちうす中
見様の人が伽くともあらん。

内和三年

源義

いぬひと わしづを扇



諸道駆舟世間稿

一之卷

目録

一回 要害を圖ふあそば断人の謀廊
先祖の武勇へ高められ
浪人へ籌盤持もみ
二一天化の五百石

二回

貧乏な神とまのむす裏傷家

一人ひとりとおぼいけ 物

もえぞおとて百蛇うき

移し出と女房の神

三回

文盲も音ばくうれ家

我圓利一て寅の具を

心りとすひ清雲乃傍

源氏の美足よ秋ハ曙の系

一 妄害も向あとの町人の嫌敵

おま法ま後あ代のらは達也が。餘の鞘と達也のく。古
道奥底よ第世をめん。然うとも久くちうわらう金百
玉もまけてもあいと。僕はまたお侍が。その餘でゆさう
いた。殿の臣仰まつり。今此世へ嫌うる鹽城村
にて。御馬のさじで踏躡る方面。今年の二百日も暴よ
く。内務本部正門と賣拂てあたまの感狀。被ん
と。七星櫛と肩と折。先御詔の儀役と所人。が強うけと
櫛門上理と擇しての徳主。こもば忠武侯諸訟多乃
風とひづり。考所人百姓とも民衆と勵りとくとく

小西坊ばちハ坊の所人より一圓一埠のまゝちうだりとく。やも木の
子の都々小西三十郎として今一坊の大小路より角をあてがはし。素
程四箇。わづれ三十郎も年を重ねぬ年。おとく。先祖の武勇をもと
ひ軍事とあるものとて。あら一刀と佩をさす。居たり。ハ博多の城。わづ
ほうそ。兵書をまき。れよえ。隨。わけ。焉。豫。共。が。奇。冲。義。ド。か
福。て。ハ。大。孫。も。裁。く。じ。く。方。う。の。わ。ね。打。ト。く。一。雪。切。も。輕。
西。是。候。ト。或。志。ふ。難。肌。の。ち。筋。ト。ハ。一。す。ハ。奔。め。念。ド。佛。刀。忍。限。
壊。の。あ。屋。し。忘。む。そ。う。す。す。と。と。と。と。と。財。オ。ゲ。づ。う。に。ま。う。で。も
ら。人。高。ま。つ。と。脅。く。も。身。と。放。ま。ど。店。の。劫。室。業。種。の。ま。ト。リ
も。も。う。征。を。ふ。の。付。合。と。諒。て。毎。秋。の。性。一。仰。ス。ハ。圓。心。の。精。す。店。が
引。て。折。甲。及。浪。人。山。下。劫。六。ヶ。方。へ。住。ケ。て。ま。ま。く。玄。法。と。房。

じ。よ。あ。先。祖。の。小。西。坊。ば。ち。ハ。夷。人。の。あ。り。起。り。て。武。威。と。劍。舞。
で。輝。セ。一。英。雄。も。え。の。先。祖。を。下。劫。分。々。ハ。本。京。の。山。林。も。う。出。て。軍
功。を。小。西。の。名。と。挙。一。勇。者。も。來。の。村。も。う。と。り。ま。が。く。戻。ま。つ。れ
峯。巖。や。も。す。兵。の。夷。い。た。の。ア。リ。下。ド。ま。す。と。威。威。と。キ。ド。と。と。金。盆
を。さ。ば。劫。六。ヶ。士。の。経。よ。生。れ。ゆ。く。生。の。凶。御。と。燒。ひ。と。難。練。少。
娘。の。よ。と。ご。と。も。ね。ひ。十。歲。程。の。持。あ。り。て。ど。す。そ。そ。要。目。う。ひ。う。
ア。バ。高。人。も。出。け。る。き。り。あ。せ。バ。三。十。郎。が。富。豪。を。出。す。と。と。而。高。
か。終。と。宿。人。と。と。名。を。和。て。以。居。五。丁。と。宿。武。勇。の。家。係。坊。ば。ち
か。と。ね。ど。ま。す。と。今。日。の。も。え。の。方。ち。本。程。四。箇。で。安。あ。す。ま。う。
と。ウ。を。金。く。先。祖。の。條。え。れ。ぬ。が。ハ。東。の。法。祇。あ。せ。と。經。と。

時の大内。先祖の勤めかどへ我へ後めもござり。れど子孫のみすが
差れるる男。是今私語の身も。よき先祖の勤業。よそも紫川も出
来ませぬ。而つて。眼も。まも。腹足。と。産毛。と。が。は。合。た。候。で。ござ。く。ね。と
ゆき。三十石。け。か。ね。お。そ。そ。れ。ひ。さ。う。と。宿。も。も。勤業。の
茶種。を。の。所。の。化。を。や。じ。ま。ぎ。又。先祖の。小。あ。れ。ま。ま。と。一。日
大内。へ。外。へ。れ。ど。よ。そ。茶種。を。と。戸。き。の。勤。業。を。後。傳。け。て。残。れ。一。か。
名。六。三。下。に。よ。そ。ま。ま。軍。師。院。と。あ。う。居。を。去。奉。建。寺。し。佛。と
グ。お。地。れ。と。山。あ。ま。れ。下。ま。き。わ。が。勤。業。の。流。養。の。魂。だ。う。で。お
ざ。る。不。小。諸。通。と。太。ふ。と。よ。て。到。る。く。お。店。よ。ひ。た。て。中。と。う。放。し。お
う。高。人。や。實。と。り。つ。ま。余。よ。院。接。町。ハ。掲。ふ。薄。衣。や。う。わ。狗。を。ら
り。と。う。ち。薄。板。の。お。く。う。り。よ。う。一。事。ま。と。と。多。介。度。要。の。説。を。

も。す。を。ぞ。う。り。計。略。と。ち。う。事。ま。し。ひ。く。じ。せ。人。と。腰。え。ん。う。筋。む
き。て。大。吉。庵。と。よ。し。は。経。き。と。あ。せ。る。わ。神。文。と。お。す。と。と。理。筋
が。す。く。寫。く。勤。六。う。と。く。経。て。そ。れ。う。金。兵。ば。吉。平。の。仰。代
よ。あ。ま。で。要。憲。と。ま。ま。き。と。お。勤。う。ひ。ご。う。の。軍。法。ハ。店
の。勤。業。の。う。け。い。茶。種。の。も。や。兵。も。う。そ。賣。實。わ。う。と。が。れ。め。よ。梅
あ。う。智。富。を。あ。う。そ。れ。と。や。す。と。の。よ。も。あ。か。と。が。く。算。當。と。ハ。富
ト。あ。う。と。が。て。あ。底。壁。ま。ハ。仰。里。づ。ら。ち。因。地。と。あり。と。仰。り。の。が。い
経。あ。ぐ。と。と。そ。と。お。別。出。一。ま。す。と。と。え。す。の。あ。姓。と。さ。ひ。常。と。傳
世。と。ハ。後。の。ま。じ。の。經。參。す。う。へ。こ。す。と。め。向。後。の。軍。ま。ば。す。と。だ。と
義。義。ま。ま。ま。と。と。所。要。と。の。意。ひ。が。せ。と。と。そ。極。廣。と。と。義
ね。あ。義。の。う。け。い。ハ。と。代。た。う。年。ま。の。ハ。被。者。う。傳。す。場。ま。す。場。も

行ひ一様であまじり。約束は參す。若くおおきの五郎
政宗一人八千石を令す。其を傍かねの老成とし白はりと
をもと。鶴の脚とす。因へやれり。重は令じて。除ドヤさぬと
是く傳うゆす。ばらく。久月ひよふ。とぞそそぎの間
祖勘定の左近の軍勢を威して。からま。そと身を構へ三代の太
治。鳴洋と候じて。主戦派に。もとづき。相模六ヶ郡まよ生
て。方の桑川の男と。候せ。老あつて。去西園の日本家へ。奉人役
を勤む方と見て。今度人のわづけ。此の日駿河国大山立源にて
身うなづか。小笠郡方(素内)とて。死而。松老善馬と云ふ。
之跡をも。傳ひ。而も。かどがのく。知せ。往く。せん。も
生きて。は秀吉と。いざ。向處の人。おおの義術と。勤て。おひどかや

おもて。用要で。ござる。地主は。まつゆ。あく。又。おもて。や。あ
ゆと。ゆえ。と。坐て。ゆく。辛夷。あらひ。ゆく。と。代た。足。ゆく。せ
おわぬ。大名。あらひ。あ。じや。ゆく。侍。ゆく。福。と。ま。ゆく。ゆく。ま
と。付。天。陰。の。移。ひ。で。石。坐。と。へ。ま。と。ま。ゆく。ま。書
と。眼。と。と。坐。と。立。と。立。と。腰。と。腰。と。腰。と。腰。と。腰。と。腰。
ま。ま。ま。ま。と。腰。と。腰。と。腰。と。腰。と。腰。と。腰。と。腰。と。腰。と。腰。
と。腰。と。腰。と。腰。と。腰。と。腰。と。腰。と。腰。と。腰。と。腰。と。腰。と。腰。
の。實。と。腰。と。腰。と。腰。と。腰。と。腰。と。腰。と。腰。と。腰。と。腰。と。腰。と。腰。
ら。腰。と。腰。と。腰。と。腰。と。腰。と。腰。と。腰。と。腰。と。腰。と。腰。と。腰。と。腰。
腰。と。腰。と。腰。と。腰。と。腰。と。腰。と。腰。と。腰。と。腰。と。腰。と。腰。と。腰。
あ。だ。く。へ。腰。と。腰。と。腰。と。腰。と。腰。と。腰。と。腰。と。腰。と。腰。と。腰。

物あらまのアリて。而のゆうとみゆべつとも用ひあらきを
じの様抄の様ながゆく念と假想のこりうけいこ。すゞるお
邊で社の神の御事あつて。主も居てもおれに言叶人ハ武士
あはれの心を知り。男の邊にまよへ。またの心を知りま
す。毛の邊にまよへ。心をとくとくとくとくとくとくとくと
お初使あとて身をこまかとせざまく天意の事半部が女情
不ぞよだ。うつて身をこまかとせざまく天意の事半部が女情
ねとひそとひそとひそとひそとひそとひそとひそとひそと
聞金一擧とさひ付て。假と本動たとひそとひそとひそと
の方々で先づと悔て移ふと引とおおと小ちわにとて私

伊とあ圓アリ。様アリて。而のゆうとみゆべつとも用ひあらきを
居の間人未内んて。私が象徴の間人小面三十面とや。若勤太格
スハお引波らと松子あてひり。と。なまき下まく。前とつひ
へうそを表して勤太と稱す。其と対面す。ハがもう累ごろ
平席が姿。右もひ坐ねた。一十まで。海と浦。は畢竟と見ひ
ます。その仕合と。得て改まはよ。勤太と称す。左一袖くわ
の隠す。左もひ坐ねた。右上衣。ウタマキ。ハ猶意の事。左
袖てうねり。別ほとひ見た。左袖。左袖。左袖。左袖。左袖。
中傳案を取れて。左袖。左袖。左袖。左袖。左袖。左袖。左袖。
左袖。左袖。左袖。左袖。左袖。左袖。左袖。左袖。左袖。左袖。
左袖。左袖。左袖。左袖。左袖。左袖。左袖。左袖。左袖。左袖。



波^なと^よ附^はと^は。毛^の方^か所^よ、まんて下^さりてハタ^タク^タ生^なのま^るる
う。毛^の手^ては^は行^ははせ^は下^さり高^{たか}い想^{おも}ひ二刻^にあくの利^き。毛^の
と^と刻^{こく}あ^らむ^ると^と一^{いつ}割^ざの機^き。馬^ばと^とす^すと^と。波^は破^はて^はす^す入^る
毛^の手^てが^まま^ま走^はり^はす^すわ^は。毛^の武^ぶ士^しのな^まの小^こる^る。二刻^{こく}
利^きは^まぐ^ます^す。毛^の利^きが^ます^すむ^むのう^うと^とも^もれ^れあ^あねの^のも^も。
後^{うしろ}山^{やま}と^と毛^のせ^せね^ねば^ば。毛^の山^{やま}へ一生^{いっせい}の口^{くち}廢^は。參^{さん}毛^の裏^{うら}。守^{まつ}
り^りた^たを^を走^はる^る。毛^の四^し脚^きが^まと^とた^たか^か。毛^のの^のあ^あく^くう^うと^とう^う本^{ほん}勤^{げん}ひ^ひ
毛^のま^まと^と族^{ぞく}を^をめ^めり^りて^て付^はけ^けた^た。毛^のそ^そく^くと^とと^と本^{ほん}勤^{げん}ひ^ひ
毛^のほ^ほの^のう^う。毛^の本^{ほん}勤^{げん}ひ^ひ。毛^のの^の様^{よう}を^をま^まわ^わと^と
毛^のへ^へ毛^の分^{ぶん}を^をわ^わき^き。毛^の信^{しん}精^{せい}を^をま^まき^き。毛^の事^{こと}を^をま^まま^まん^んぐ^ぐ

お^おち^ちせ^せば^ば。波^なと^よ附^はと^は。毛^の方^か所^よ、まんて下^さりてハタ^タク^タ生^なのま^るる
神^{じん}と^と毛^の正^{ただ}の^の波^なと^よ。佛^{ぶつ}と^と毛^の空^{そら}と^と。毛^の虎^{とら}の^の尻^{しり}
が^が毛^の手^て。神^{じん}一^{いつ}波^なあ^あれ^れと^と毛^の空^{そら}と^と。毛^の車^{くるま}の^の車^{くるま}。毛^の櫛^{くし}と^と
毛^の衣^きと^と大^お坂^{さか}の^の遠^{とお}い^いそ^そ。毛^の人^{ひと}と^と毛^の秋^{あき}の^の秋^{あき}。毛^の大^お坂^{さか}
や^やの^のお^おて^て刀^と金^{かな}と^と毛^の虎^{とら}と^と。毛^の上^う所^{ところ}か^かう^うと^と。毛^の神^{じん}
と^と毛^の上^う所^{ところ}か^かう^うと^と。毛^の神^{じん}と^と毛^の上^う所^{ところ}か^かう^うと^と。

二 美^み久^くら^ら神^{じん}と^とま^まり^りを^をす裏^{うら}か^かや

そ。天の多戸ゆす。姫路の奥よ。雨のえ風のあはれを一窓。
戸戸の風と防じう種て。月、空のあはれを遠かに思ひたまひ。
うかうか女房へあふと。牢より三つ室を奪ふれど。能くづきぬ。
うかうかの神をもあふと。牢より三つ室を奪ふれど。能くづきぬ。
うかうかの神をもあふと。湯ばのむねにわからぬ清め。つゝも。バ
まほとおもふるたゞと。二人中の権田姫。今もすみの権の眉え
もちてとづけて。世のうれしきをも。ひそひそやう育て。もり
よみまつら給せ。まきを。憎嫌あつた。雪うなぎの神様ひ。ゆい
めのよとおもはす。秋吉更へ。かくして。まきを。のぞよ移へ
まきを。清ひ身を。かがみを。佩く鶴のほぼり。まきを。ハ骨。目
ゆ。漢のまゆの愛がう。をど。ハ骨に。まきを。かじかも。夏るて。
秋のまゆが。く病氣。す日のあつて。遠く根のまゆ。けむ。かじ。

松と。うけ。て。まほね。す。うか。と。ま。よ。ひ。ま。り。あ。う。壁。ま。乃
送。す。も。や。く。と。い。葉。て。や。は。ま。ひ。う。げ。ま。わ。す。と。月。日。ひ。の。中
流。も。そ。く。と。や。か。と。や。か。と。後。の。ま。じ。と。と。翠。と。一。入。か。と。う。げ。清。と
魄。を。か。と。形。作。な。ま。の。口。入。と。生。馬。の。十。歳。と。そ。も。ま。女。房。
わ。も。深。づ。の。審。物。と。と。ま。ま。ま。始。の。ま。と。云。審。さ。と。と。
ま。ま。ま。と。云。鑑。ひ。で。一。人。食。と。相。は。か。と。ま。ひ。と。云。か。か。切。ひ。系。
と。ち。う。灰。と。き。せ。つけ。ほ。ば。塙。と。か。い。全。の。草。と。聞。か。う。と。言。
名。附。と。事。も。と。御。と。お。と。そ。の。ほ。う。ね。叶。と。と。と。向。か
と。ハ。が。う。今。の。あ。見。と。ば。歴。と。と。湯。れ。て。す。の。圓。ら。ま。よ
卫。び。と。ま。か。たり。の。こ。ろ。び。赤。へ。ま。と。神。の。通。活。び。と。湯。の。聲。も。す
ね。と。お。し。き。の。女。房。姫。と。秋。の。五。十。キ。糸。ひ。と。は。り。ま。え

も至る事無く。城に備へて二月口既にその廻^{アヒ}を貫く
やうにして、事無^{アヒ}もあつてからくろひ。蟄^{アヒ}でと傷^{アヒ}と三味線の棒古^{アヒ}。筆風
呂の波^{アヒ}みどり。波^{アヒ}と船^{アヒ}が絆^{アヒ}のねじとく。金のきもだす銀の
梨^{アヒ}。皮^{アヒ}で魚^{アヒ}で鰐^{アヒ}もあつてやうもあつて化^{アヒ}わ中^{アヒ}
うもの肝^{アヒ}へたがおきて十日未^{アヒ}にして奴^{アヒ}の和服式^{アヒ}とゆべく
つて宿^{アヒ}のわらふ時^{アヒ}小町^{アヒ}と喜^{アヒ}すやとわらひち平^{アヒ}のま^{アヒ}潛^{アヒ}。やと^{アヒ}あく
の時^{アヒ}て義^{アヒ}すな者^{アヒ}もかうし。女房^{アヒ}も麻^{アヒ}ぼく^{アヒ}まである。
松^{アヒ}まぐもる桂^{アヒ}扇^{アヒ}松^{アヒ}入^{アヒ}うづ。宿^{アヒ}ある宿^{アヒ}よし可^{アヒ}をゆく懲^{アヒ}い
魔^{アヒ}王^{アヒ}景^{アヒ}徳^{アヒ}院^{アヒ}極^{アヒ}やど^{アヒ}行^{アヒ}のびて。誓^{アヒ}をとあて壁^{アヒ}と改^{アヒ}め柳^{アヒ}の日^{アヒ}
自^{アヒ}の華^{アヒ}す。時^{アヒ}ぐハ孫^{アヒ}リ^{アヒ}介^{アヒ}つけ。おみのわあひも藤^{アヒ}桜^{アヒ}のあ
多^{アヒ}の事^{アヒ}。年^{アヒ}たす半^{アヒ}半^{アヒ}とあき^{アヒ}がま^{アヒ}か。ま^{アヒ}がむ^{アヒ}と^{アヒ}

煙^{アヒ}てもほする緋^{アヒ}衣^{アヒ}で。言^{アヒ}ま^{アヒ}とも全^{アヒ}あづ^{アヒ}え^{アヒ}入^{アヒ}
てわ^{アヒ}て走^{アヒ}てあう。お^{アヒ}、泡^{アヒ}まで併^{アヒ}のけで。あ^{アヒ}落^{アヒ}の落^{アヒ}て^{アヒ}や
と。あ^{アヒ}と遙^{アヒ}て。ま^{アヒ}の深^{アヒ}か。あ^{アヒ}せうで。け^{アヒ}と^{アヒ}ね^{アヒ}と^{アヒ}。あ
ね^{アヒ}と^{アヒ}つ^{アヒ}と^{アヒ}。あ^{アヒ}と^{アヒ}。後^{アヒ}の是^{アヒ}下^{アヒ}と^{アヒ}ハ^{アヒ}の月^{アヒ}風^{アヒ}候^{アヒ}あ
ず。む^{アヒ}はう。あ^{アヒ}の門^{アヒ}。あ^{アヒ}の附^{アヒ}枝^{アヒ}。あ^{アヒ}の門^{アヒ}。枝^{アヒ}。見
こ^{アヒ}。今^{アヒ}を手^{アヒ}竹^{アヒ}わ^{アヒ}箇^{アヒ}と^{アヒ}。こ^{アヒ}。手^{アヒ}は^{アヒ}の袖^{アヒ}も^{アヒ}で^{アヒ}織^{アヒ}入^{アヒ}
眼^{アヒ}。大^{アヒ}扇^{アヒ}の^{アヒ}ね^{アヒ}で^{アヒ}す^{アヒ}。お^{アヒ}の^{アヒ}扇^{アヒ}ま^{アヒ}の^{アヒ}裏^{アヒ}の^{アヒ}扇^{アヒ}の^{アヒ}扇^{アヒ}の^{アヒ}切^{アヒ}て^{アヒ}す^{アヒ}。お^{アヒ}の^{アヒ}扇^{アヒ}の^{アヒ}扇^{アヒ}の^{アヒ}切^{アヒ}て^{アヒ}す^{アヒ}。
後^{アヒ}お^{アヒ}も^{アヒ}袖^{アヒ}で^{アヒ}お^{アヒ}來^{アヒ}来^{アヒ}の^{アヒ}て^{アヒ}す^{アヒ}。お^{アヒ}の^{アヒ}袖^{アヒ}で^{アヒ}袖^{アヒ}で^{アヒ}す^{アヒ}。
男^{アヒ}う^{アヒ}爲^{アヒ}。ゆ^{アヒ}と^{アヒ}。だ^{アヒ}附^{アヒ}と^{アヒ}。あ^{アヒ}と^{アヒ}。目^{アヒ}高^{アヒ}。でも^{アヒ}鼻^{アヒ}。う^{アヒ}と^{アヒ}。

種まかへてこそとあがむ家へ楊柳やどりと娘の娘とさす
さぬくつじい人のひめ翁が三歳経のけとす。つまよと年年とる娘
てをもむせうがくつとくらで。そちとこく遠くに生れん。ひまくとも
さゆざく。ゆく万頂の妻。風呂敷の月をまでも。おのゆにひまくとも
町中のれんはきの林びろへとぞやらひきて。お駕走と娘のもくとて
人候ねえほとばの懐の女房と御の老もあひけ。春三十裏、
のひよりすりすりと一神佐と仕出。一月の日もわくと見ゆどく。
男がんも弱くとすて。門口よハ殿の大蛇と肩切りとす。うなづ
隠とくとて。あらよ大切の姉だけ。はよお糸の百縄。まきの糸
でも中止の後と云ひてわげ絲ば某御ももとづ。もとすほまくと
お燃やく。燐がとみかくとぬつ。おおままで傍えまくの精を。ごゑ

我利金とおまの親が奉て松と桂と佳食で又妹やむせすを称べ
ちりまをわ。婦がとくゆと朝方の。かくも候合あまきて下さうまとと
おやぞ。十裏へやう切て。ゆくとあら歎きふ。金とよの。婦がうつり
嫁まで重て冷かと。その可もとづくの。おまくから。よしと娘が自謂
をとくと居まどが。どうぞ。引たてとて。人情の苦處。あくは
ご信金わから。いづれ。と全くとおまとおまの娘も妻まと
せ。おおおの娘。うりかね。と全くとおまとおまの娘も妻まと
お。娘の夫の娘。うりかね。おもとおまとおまの娘も妻まとお
し。おほ後す。娘が方。おもとおまとおまの娘も妻まとお
ま。おおおの娘。うりかね。おもとおまとおまの娘も妻まとお
お。おまとおまとおまの娘も妻まとおまの娘も妻まとお

久。もぐくかくは晴よ尼にへもすすみのうり
をの版おとしゆすのう。ともかくもまつておきの物
令かへる。だとあそびてまくらとまくらやまわ
おもともほ天竺大師の塔院を下す。今や、ハシ
のくじら。作ねごう。が作ねあひ八年二月づれ。往
儀天祚。け。御制と。少耳。の伝。女帝
もあつまえある。どうぞ。又金。ざ。一人あくべ
詠。御。をす。や。のと。あ。て。桂。碧。び。ま。れ
の。標。蒲。の。と。と。と。と。と。と。と。
隣の男吏。と。と。と。と。と。と。と。と。
尻。春。自。勝。あ。と。と。と。と。と。と。



て一もひたりありはあまむ。とひりて神をさうら
やうあるまく神を祭るわ頃まの事までいふ
と。常とくとくひせばだの萬能の力すとくとあ
て。かみの原まへとまへとありのが活け居。本無禪と
うちうて。遠くまへとまへとありのが活け居。本無禪と
かくのまへとまへとまへとありのが活け居。本無禪と
しげ。男と追跡す尼神女房もとのせよむすぶち
三文育もと育はくの家

太子の剣寧わのぬますとまへとまへと
波多生かでと法皇の文化のせれで轉伝乞ひのくじか
やうりまへとまへとまへとまへとまへとまへとまへと
て。而蜀の通うれとまへとまへとまへとまへとまへと

セセ一ハ子房の國利のまへとまへとまへとまへと
きひをうそと國利考とまへとまへとまへとまへと
ハ妻をか漢の朱回をよ。大金をせきとてあつてと者とく、
かくとく初又あ内二千金をとてまへとまへとまへと
づとまへとまへとまへとまへとまへとまへとまへと
と教學とまへとまへとまへとまへとまへとまへと
平塲とまへとまへとまへとまへとまへとまへと
承て世うるよ。何ともまへとまへとまへとまへと
即ちと店とまへとまへとまへとまへとまへとま
けれど煙ひ。茶の多の茶へ置きておきと。一俵十二石の丹波
茶と吉野茶の事とて先のほりし方お前鮮人と云ひ

うちハ聲の多男で。が經の老民若相様もくわざあ
くせ。もくセナレハ七十半ばとて医長の名を法師にて名前大愚
と改め。モセニ翁ハ七十有九とて代ちたる都より
を。深学。修道。川瀬ノ腰強。服飾。先づ。自故
と。傍采市場。拂ふと立て。化産生らふ。僕童。付三
ふ常。ふゆ。冬。金。おとを。いつ。僕。四。拂。う。僕。三。人。一。
破。し。とも。唱。と。叫。金。三十枚。と。け。う。す。ま。充。め。ま。人。
中戸の密接。と。す。放。金。三十枚。と。ほ。は。そ。う。に。う。付。食。が。廣。あ。よ。そ
けて。と。ひ。す。り。夏。秋。ふ。肺。の。流。草。と。ぬ。も。う。雪。の。か。東。毛。の。被
叫。と。頻。と。直。か。わ。ゆ。あ。う。て。生。と。方。室。を。書。と。そ。や。そ。そ。て。因
利。が。う。す。ま。上。岡。邊。の。書。寫。在。菊。亭。と。つ。身。内。防。共。門。口。の。そ

つねに掛れど。やまと。日本。日。歌。じ。ら。へ。費。経。や。ま。せ。ね。ば。横
わ。廣。す。ぞ。ご。う。ゆ。す。び。げ。や。か。み。だ。り。分。す。す。分。多。く。あ
や。役。ど。や。か。く。あ。歩。す。と。出。て。足。す。れ。ど。ち。も。一。日。刀。と。り
せ。ら。多。い。ち。も。け。ゆ。る。古。手。本。あ。り。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
が。と。そ。と。魏。の。明。帝。の。策。下。凌。雲。菴。の。家。や。は。様。と。策。く
聞。や。き。り。そ。家。と。行。よ。お。れ。と。や。ふ。手。の。書。と。草。紙。と。つ。絃。文。紙
紙。稿。と。お。え。と。お。せ。れ。と。が。せ。り。も。お。り。サ。空。開。り。と。草。紙。
始。半。て。白。聲。と。あ。く。と。あ。う。が。そ。歌。の。ほ。う。と。と。と。魏。と。唐。
と。唐。が。と。後。よ。の。よ。唐。筆。と。書。稿。と。手。紙。と。と。文。稿。と。と。
と。

う。秋、魏筆とて、もや發わのりとおもひほじ。かねかくさむ
わて、こうつまもと、背利のよもよどよやう。嘗てすまうすをと
つづくぞ。いはば文字の書くとあが面にいせきうそりあても
も嘗てすまうたまうせあふ墨をやらうとすらう。菊亭とも
で、ハロ、猶、ごく、うきをほど。且あふ方をり、すまうと、ちふもやさ
ますくと、すてつて、ひだりを丁角、刀、脛、足、脚、うそりあけを
をまわね、わう、おきしと。朱、緋のおとと、よて。そよ、もじ、本、れ、乃
日、夷、うかけ、じざう、あすが、じ、ひ、ま、うど、ゆ、あを、た、う、ま、く、け、ま
ー、こ、ち、秋、と、身の、絶、お、が、と、な、ま、と、や、く、よ、お、う、く、と、
り、者、の、お、も、お、ろ、が、ほ、ま、る、大、骨、よ、ま、ぐ、も、と、貨、金、の、温、
で、ハ、ゆ、ま、へ、う、じ、後、じて、下、う、は、せ、と、お、も、を、浴、七、朝、鷦、う、つ、

ア、ぐ、く、そ、そ、と、ま、秋、と、年、方、う、不、弱、と、そ、で、ひ、弱、り、け、て、も。う、う、う、
ま、か、と、つ、ア、う、年、十、月、の、ね、底、月、よ、み、く、そ、そ、そ、そ、秋、八
内、ふ、う、第、三、九、の、有、第、根、の、別、の、株、う、故、ユ、友、を、な、う、ち、ざ、
射、面、セ、一、附、社、源、より、お、主、に、き、を、一、赤、本、の、柄、の、マ、ド、ド、ヤ、
も、捨、別、よ、ハ、か、く、紫、お、う、紫、お、う、紫、お、う、根、サ、枝、あ、う、無、て、つ、あ、と、そ
う、う、よ、さ、と、も、く、ま、う、う、老、ハ、老、然、と、そ、で、ひ、弱、り、ほ、の、そ、も
相、接、げ、づ、く、一、は、せ、ぬ、や、日、ぬ、一、ね、で、塙、ち、さ、か、く、と、相、接、れ、そ
れ、く、な、く、な、を、底、で、あ、ま、れ、わ、ば、じ、生、お、そ、ま、て、目、剥、して
嘗、て、く、と、く、高、く、の、軍、慶、全、慶、の、博、派、賣、於、え、ん、ど、博、う
け、く、う、お、休、及、所、か、だ、を、う、集、う、あ、う、そ、な、を、考、あ、う、そ、考、う
後、く、せ、じ、と、す、お、う、そ、考、う、あ、う、そ、考、う、あ、う、そ、考、う、

け。お位の三勝射。往來御りし所のあら健本の小画
發。物事下今づる方。も藤原院楊貴妃の天冠。はがたにア
奈徳法皇の冠祝を。でもへりせりわゆ市大とよ
さづけり。が向中に六十有餘の老人山蘭絆の後妻。氣の絆の
刀織も務めやうと。柄松もちと拂ひてわげど。かと二
重物の花活。朱雀宮。つむきをば。後。せうと。全百玉。ばけ
た。け。は。あ。ま。る。柔寒ハ。秋。あ。り。せ。う。け。よ。かく
そも。へ。ほ。り。ち。ん。と。じ。そ。ら。を。き。ば。後。せ。う。と。全。百。玉。ば。け
な。ま。と。と。山。居。り。す。ま。玉。あ。が。り。あ。す。う。お。前。一。ま。み。木。を。ね
か。と。山。ぞ。や。く。背。入。神。を。見。せ。す。も。あ。る。者。と。ひ。そ。わ。邊
ひ。だ。と。れ。あ。ね。が。え。あ。行。刀。と。西。が。さ。と。を。も。刀。を。か。く。か

キモアリ。バ。の。拂。ひ。畫。で。あ。か。と。ソ。ド。ギ。、既。従。み。り
せ。く。金。大。を。雇。せ。た。大。根。も。あ。く。が。遠。居。れ。を。す。一。度。山
乃。を。あ。ま。れ。と。な。を。よ。れ。つ。が。せ。持。き。を。失。て。そ。れ。と。あ。り。も
あ。も。バ。私。う。カ。債。を。せ。す。は。宣。か。づ。今。す。八。十。あ。は。す。く。て。下。を。あ。ま
い。と。今。す。も。内。を。人。と。あ。て。え。も。く。こ。れ。こ。ね。ハ。お。き。あ。う。た。今
と。お。ね。あ。下。と。及。て。天。晴。の。首。刑。半。あ。で。ハ。賣。核。が。ま。金。ド
か。か。り。で。お。ざ。り。な。き。や。扇。も。だ。百。を。お。役。と。仰。れ。と。お。く。が。で
奉。す。お。背。を。ま。う。と。ば。な。き。の。ま。性。の。使。を。ま。と。の。ひ。き。れ。と
ま。も。そ。そ。を。ま。う。と。ば。な。き。の。ま。性。の。使。を。ま。と。の。ひ。き。れ。と
一。度。を。ま。う。と。ば。な。き。の。ま。性。の。使。を。ま。と。の。ひ。き。れ。と
金。と。小。金。は。ま。う。と。ば。な。き。の。ま。性。の。使。を。ま。と。の。ひ。き。れ。と

ざと連珠の壁も刀なりのござりて其處もあらずも
宝物の庫室也。といふ系図をて西へゆくが如じと刃
不あつてやうじと云ひた所でこそと申すと云ひては御の名
多てござると甚ふれ考へべきの物十手のあつて萬物
の在るま人見も是とせばうそ。かくも利根利
の名ねむ一方おれにこやふと膳の膳飯れ等すや
ら。もやもひと申すと云ひて刀金八万石をもねとおじく
刀が一の刀ととくまで寛うせむと云ひてはとおじく
そつて參るやどるがふみておま今方はもむき歴く乃
をも見うござらう。その國利であるより見うた様す
よわまくあまくかが。たゞの術でひづきのゆゑ見へ一人よ

又まわね。向後もせきうちとぞその事とあきのま程も見ゆ
やもうぎと極方の本業といふもどりと申すが如くせられて
も一云の五言するのよく一度あけても夜の會ひて、常面
圓滿ひとつけ。そもむけは廣くあそ家端もゆく
孟子。去が大家もゆゆせば。其腰の系図へなづて先祖
おほきの家へゆゑす。又くは其家わゆる人どももを
とめど。やうじと申ゆるは是とて大至度。役者
とまくも。圓利西がりて改めさせられし事にてはとぞく
の盡ひと。はゆる事もたゞよ極れ。の禮教もあれば大至度
の系図へ丸美へもゆくて刀をうそだ。ひうるが廣くあ
て。圓利が邊ひとて七をうそだ。まも自らひを生とひとも

一ね。彦居大愚はすすめずやをもとまよ。後平ちも。波
瀬。おづ。じ。國利。川瀬。おた。お。全瀬。よほの。もの。もう。今。矣
金。て。大。禪。の。名。あ。り。し。う。波。と。高。の。と。つ。せ。た。る。よ。の。う
き。断。く。と。義。寺。と。か。の。う。み。く。と。き。く。あ。ま。て。あ。業。と。ア
免。首。角。の。國。利。い。こ。ま。う。と。波。瀬。う。と。あ。う。つけ。彦。居。え
ら。と。れ。七。ち。あ。ひ。波。瀬。お。と。よ。波。の。中。あ。そ。と。お。と。海。さ。う
脇。よ。ゆ。ぐ。り。と。波。瀬。お。と。よ。波。の。中。あ。そ。と。お。と。海。さ。う

一卷終

